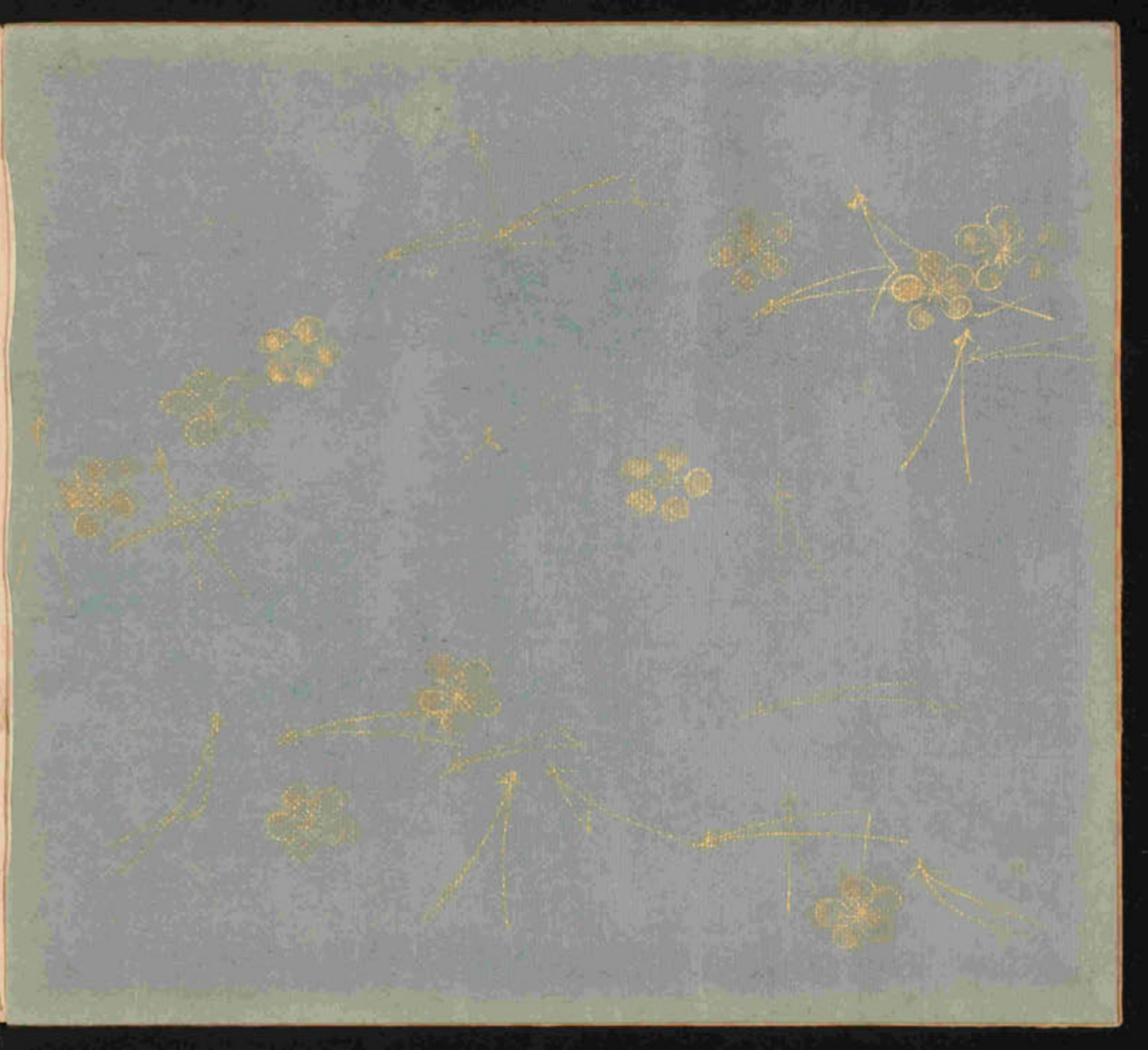


古今集序

第六註

7



古今和詩集序註第六



古今和詩集序註第六
 古今和詩集序註第六

此書乃古今和詩集序註第六卷之
 則毛詩一序也

ハ詩序曰詩有六義一風二賦三比

四興五雅六頌三比比也四興興也五雅雅也六頌頌也

正義之風言賢主治道之遺化賦

之言鋪陳之政教善惡以見今

美嫌於頌論真言取善事以喻

ら削りてふわくは則詩正義
賦比興の別を云 孔子合礼凡
雅頌中則孔子以前未合詩
比賦興則爲篇卷と云 謹按也
重同云 予て六書の論を申す詩
異なりといふも礼六の賦を
論じしや 一版の風を興の詩を
評するとして物たるを二の
賦も亦興の賦を雅の句に
考へしむるして物たるを三と

ては二の評興の句に三の
義を論じて三の賦を興の
右にゆめよと六種の詩を
申すは後述の事なりとい
ふの如くはぬとんたりの義あり
益風と興といふこともた
るの如くはぬとんたりの義あり
るなり 賦をばさして後述する
とんたりの義ありとんたりの義あり

歌もつらげゑるやうしとて辟をいふ
必すやうとてつらふ不可限ぬや賦
と雅といふやうききいふやうに評
いふやうもいふやうにいふやうに
をいふやうにやうとて賦をいふやう
量いふやうにやうとて後也や
いふやうにやうとていふやうに
やうとてや雅といふやうに後也
やうとていふやうにやうとて

んがよ乱るやうにやうとて
右にいふやうに詩の一篇よりて
いふやうにやうとていふやうに
題をいふやうにやうとて
やうとていふやうにやうとて
又世集といふやうにやうとて
いふやうにやうとていふやうに
やうとていふやうにやうとて
いふやうにやうとていふやうに
いふやうにやうとていふやうに

序書として始て六巻以下の
風情を人にも知らんとして書せられたる
答書も之のよき筆跡にみよる
りとして知らしむるも古はよき
れずばいふてふかひの類して
おのずかしくいふにたるもの
うんと多くも筆跡も風も自然にお
似たりぬひりある一賦と推
しりぬぬのよき筆跡にみよる
記すとていひりせしむる筆跡

なる中としても毛筆より出たり
後毛筆もた風雅頌を以て詩篇
として賦比興の詩の文も
定めりといふ三つを以て三篇を以て
よき筆跡にみよるものよき
よければ筆跡のよきものよき
を以てしよるものよきものよき
ゆも筆跡にみよるものよきものよき
ものよきものよきものよき

それゆへに筆跡のよきものよきものよき

たはしきことらんしんはくしんしんしん

廣韻云風諷之玉篇見之云辭

吟之毛詩云上者以風下化下者

以風上判化者仁息之義也忠孝也

難波はよきやこれたのあつた

いふこととさやこれた

此今の中とそよよは年風の

家ひさくと後中ハ風も高赤白

黒のまもしわとれとあつた

物もんは長短のまはれあつた

わつたれとれいりり物もつと

多し草もあつた時風の解を

取もぬれ風もひさくと後今と

此難波はのし何事とれ

いふことと物もつと

のま今ハ風もつと今と後

まいもつと今と今と今と

ぬも今と今と今と今と

いりも今と今と今と今と

まいたる今と今と今と今と

斗さきさきと世と争斗は鬼
とてしつ神の世と争斗は
とてしつ 詩序も風を尺云

譬之喻不行言 混天八運圖云
人不見風 魚不見水 鬼不見地
龍不見石 成實論云 菟角
龜毛 燻香 蛇足 及風色 亦名
會為文 了らたは争斗と
申は後うんあひ皆と争斗也
此凡と争斗と云ふ二義と一

意風二は定風也一。意風と
云ふは風とははらんあひ
也いと云ふ難波は争斗也二。定
風詞の同縁よ。せそと争斗
をば定風争と云ふは争斗
に申は後と云ふは争斗と
あひと云ふは後と云ふは争斗と
まは物と云ふは争斗と

争斗の業平朝臣二業平のい
争斗人をして争斗と云ふは

あはれなる御心
さしつかへなく
えりてはに
あはれなる御心
さしつかへなく
えりてはに
あはれなる御心
さしつかへなく
えりてはに

小節通風の延喜抄に記す

あはれなる御心
さしつかへなく
えりてはに
あはれなる御心
さしつかへなく
えりてはに
あはれなる御心
さしつかへなく
えりてはに
あはれなる御心
さしつかへなく
えりてはに

奴 倭 國 領 事 官 官 署 設 於 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內 廣 州 府 城 內

世帯の志賢道との家集もたはしく

んびろしりやせむり筆の心

より花びあひして他事すく

中びしびれく次は若心疲

く書むのふやしくしるま

惚や又方身惚力つ意ほた

は源氏物語もしくしるま

いあひしくくんとさうあ

あひしくしるまはひしく

きや右は念時やあはらん

はるるるるるるるるるる

らんるるるるるるるるる

はるるるるるるるるるる

時極はるるるるるるるる

よん夜日しるるるるるる

しるるるるるるるるるる

しるるるるるるるるる

大和物語合地り帝と御

しるるるるるるるるるる

しるるるるるるるるる

相傳之賦とは予人分半意也
人分大意也一偏はこもる意
偏執秀人せよ也予人分一偏は
空傳の如く傳へんは賦平也
こもるの予人分一切の如く
とはいふ事は一偏の思ひ傳へ
せん如く一偏の思ひ傳へん
切而白の思ひ傳へん金君の
新の思ひ傳へん

傳へんは予人分半意也
人分大意也一偏はこもる意
偏執秀人せよ也予人分一偏は
空傳の如く傳へんは賦平也
こもるの予人分一切の如く
とはいふ事は一偏の思ひ傳へ
せん如く一偏の思ひ傳へん
切而白の思ひ傳へん金君の
新の思ひ傳へん

歌と詩とノチは

んげは比なるノチ

も為らぬ物也ノチ一書と云々

詩正義之云今之失ヒツク不敢行也アヘナクサレドモ

取此類ト以言テ也

ハルニシテハコトハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

格五律ハルニシテハコトハイ十六

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

ハルニシテハコトハコトハ

しりまのうらみかきしりまのうらみ

しりまのうらみかきしりまのうらみ

ひかひかひのうらみかきしりまのうらみ

青のうらみかきしりまのうらみ

うらみかきしりまのうらみ

しりまのうらみかきしりまのうらみ

草のうらみかきしりまのうらみ

のうらみかきしりまのうらみ

中身のうらみかきしりまのうらみ

しりまのうらみかきしりまのうらみ

しりまのうらみかきしりまのうらみ

うらみかきしりまのうらみ

しりまのうらみかきしりまのうらみ

しりまのうらみかきしりまのうらみ

皆のうらみかきしりまのうらみ

うらみかきしりまのうらみ

此のうらみかきしりまのうらみ

行動は三つに議はしりまのうらみ

射の比入全評もしりまのうらみ

口似物は中つぬ射の比入

中びいしんまひて既んくまひて

わひんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

世帯いんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

中びいしんまひて既んくまひて

わひんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

んんんんんんんんんんんんんんん

うよもつりるるも〜るる
つらん

家たの夜とあはれあはれ
涙とあはれあはれ

後〜ののり〜
あはれあはれあはれ

世すもい皆えあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

月乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

望乃也 望乃也 望乃也 望乃也

ききりおくは歌を音は月よた
く花はふしゆふくしきりか
音はくすの鞠やたふくして
歌はくすはら風中に取はくし
しは歌はくすはら風中に取はくし
同くすすの鞠やたふくして
音はくすはら風中に取はくし
いふり難ははら風中に取はくし
はくすはら風中に取はくし
音はくすはら風中に取はくし
歌はくすはら風中に取はくし

歌はくすはら風中に取はくし
同くすすの鞠やたふくして
音はくすはら風中に取はくし
いふり難ははら風中に取はくし
はくすはら風中に取はくし
音はくすはら風中に取はくし
歌はくすはら風中に取はくし
同くすすの鞠やたふくして
音はくすはら風中に取はくし
いふり難ははら風中に取はくし
はくすはら風中に取はくし
音はくすはら風中に取はくし
歌はくすはら風中に取はくし

はるかに全勝なり申すも
しるしにさうするも
すのこはあつと一は群る白に
節白で一は群る白と一は群る
後とも一は群る白と一は群る
も一は群る白と一は群る
あつと一は群る白と一は群る
すのこはあつと一は群る白に
壁のふたもあつと一は群る
すのこはあつと一は群る白と

はるかに全勝なり申すも
しるしにさうするも
すのこはあつと一は群る白に
節白で一は群る白と一は群る
後とも一は群る白と一は群る
も一は群る白と一は群る
あつと一は群る白と一は群る
すのこはあつと一は群る白に
壁のふたもあつと一は群る
すのこはあつと一は群る白と

はるかに全勝なり申すも
しるしにさうするも
すのこはあつと一は群る白に
節白で一は群る白と一は群る
後とも一は群る白と一は群る
も一は群る白と一は群る
あつと一は群る白と一は群る
すのこはあつと一は群る白に
壁のふたもあつと一は群る
すのこはあつと一は群る白と

魚の妻と二人は今は今を飾
魚の妻の魚は六のまゝは将節
れ魚は六の妻の魚と云は將節
よついで魚の妻は六のまゝは春
の魚の魚は六のまゝは春
花は六の妻の魚は六のまゝは春
れよ魚の妻の魚は六のまゝは春
春の魚は六のまゝは春

卯よれまゝの魚は六のまゝは春
朝日くらきの魚は六のまゝは春

魚の妻と二人は今は今を飾
魚の妻の魚は六のまゝは將節
れ魚は六の妻の魚と云は將節
よついで魚の妻は六のまゝは春
の魚の魚は六のまゝは春
花は六の妻の魚は六のまゝは春
れよ魚の妻の魚は六のまゝは春
春の魚は六のまゝは春

いづれか海を

養をわしき海と云中は顕昭
の云家國の内も國よりの編
十日の頃と云しと云わしそ
ういふ云十日と云ふ十日は
うらふく〜と較つたやと云や
十をばら〜と後り金吾の私
よりその編より若狭の漆木
もよして七八十日わ〜ん百集
多例海と書てわ〜と海と

云と云わ〜海と云ふ云の十
海と云つ〜日本に云有深海
と書てわ〜と云〜と云
〜り〜の伊弉諾伊弉冉尊
一女三男は産たると云時と云と
云物さ〜と云わ〜と云〜の
此海釣ら〜と云〜と云〜
と云〜と云わ〜海とい〜と云
と深海と云や海と云は〜と云
百年は一分千年は一寸と云と
〜

砂長くてなる海とつらと真糸糸
よ書りか世人も普通通ははわ
海と云ふ小國れ中と云ふもの
こと海は小玉の海と云ふこと
わづ海の濱には真砂のこぼ
すもさつらと入海もさつらと
くもりかど真磯海と書り

いづれに雅きこし

偽らざるをわかしこる

人のよきまことと云ふ

雅奇なる心より物も
よきとてありし物も
玉篇云雅は正也きこし
ゆき物もたつらんも
毛詩云言天下之事
風謂雅雅正也政有
大雅言有大雅言
一云言雅二云意雅也言雅とい
くはなり偽らざるをわかしこる

奇也二意雅いんのちみしこと
かむあ〜して胡の女う〜ころを
て語及言也言雅も歌とこと
いふい雅もらぬ意雅と云也
い非一云

まごいふいりもく〜地れ
あ〜歴して朝いんちん
か〜いはあさく〜して知女
い〜いりい〜ま〜と〜と〜や
の〜ま〜朝い〜らんは説か

則〜いり申也地雅もあは
正〜直と〜せりい〜ま〜
坊よあをたて〜とららり故
ね〜も〜を〜た〜は東文雅院
とて待賢門りお壬生東いり
右位公茲す〜は中二の殿今也
い非い〜い〜

い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜
い〜い〜い〜い〜い〜

頌也祝也也よりて又送席云
頌者所以^ユ頌揚^{ヤウ}德業^{タク}展^{ケン}頌^{ソウ}成功^{コウ}
と頌頌^{ソウソウ}心^{シン}で^デ同^{ドウ}心^{シン}と云^ト印^{イン}と云
と^トは^ハい^イく^クも^モ異^イと^ト云^ク也^ヤ毛^モ詩^シ云
美^ミ威^イ德^{トク}之^ノ所^{トコロ}容^{ヨウ}以^リ具^ス成^ス功^{コウ}告^{ツク}於^ニ
神^{カミ}也^ヤ止^ト者^ノ云^ク頌^{ソウ}也^ヤ言^フ頌^{ソウ}也^ヤ
今^{イマ}廣^{ヒロク}以^リ美^ミ也^ヤ
何^{ナニ}也^ヤと^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ
い^イ異^イと^ト云^ク也^ヤ祝^{イハヒ}と^ト云^クも^モ祝^{イハヒ}と^ト云^クも^モ
と^トり^リた^タの^ノと^ト云^クも^モ祝^{イハヒ}と^ト云^クも^モ祝^{イハヒ}と^ト云^クも^モ

之^ノと^ト云^クも^モ祝^{イハヒ}と^ト云^クも^モ祝^{イハヒ}と^ト云^クも^モ
德^{トク}を^ヲ以^リて^テ神^{カミ}明^{アカ}る^ル告^{ツク}る^ル事^{コト}也^ヤ
い^イく^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ
神^{カミ}明^{アカ}る^ル告^{ツク}る^ル事^{コト}也^ヤ
と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ

是^ノ日^ヒ節^{セツ}も^モ美^ミと^ト云^クも^モ美^ミと^ト云^クも^モ
い^イく^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ
と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ
と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ
と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ同^{ドウ}心^{シン}と^ト云^クも^モ

九令賦の種もつれしむる毛
 詩の心を抱てさうく之中を以て
 えりしりゆくは毛詩の義以て
 る時ハ風雅頌を詩の爲賦比興を
 ハ詩の文として三久を以て三篇の
 之を以てしてさうくさうく
 六のさうくもつれしむる毛
 らんらんらんらん 日本記三頌を以て
 我玉之光波有五人者雖謂
 君之威名貴冑有

世壽のいんしんさうの五系三系を
 毛詩の頌義以てすれは六系の頌を
 らんらんらんらん 毛詩文をらんらん
 六系は頌のすれは神明の告意は長し
 としは他家にえは殿のさうくもつれしむる
 告らんは世を以てすれは殿を
 ハ内裏を以て表の則は殿は社を
 らんらんらんらんらんらんらんらん
 守護の天照を以てすれは殿を
 天照を以てすれは殿を以てすれは殿を

可き日本書紀の教たる事
と云は平治の亂に
草のこし
海をり詩を直以愁字造秋
しと云ふ万葉の理を
りしと云ふ事
くさくさ
素戔嗚尊の國
けり
まひ

し
種明神
皇紀
神祕術の条
云申りし及神供
同云
答云
後
は
り
是

幾女のさへの草とはいふべし

草りのもはいふべしとはいふべし

をいふべしとはいふべし

難しからずとはいふべし

といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

和名に鳥羽といふべし

草りのもはいふべし

同しといふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

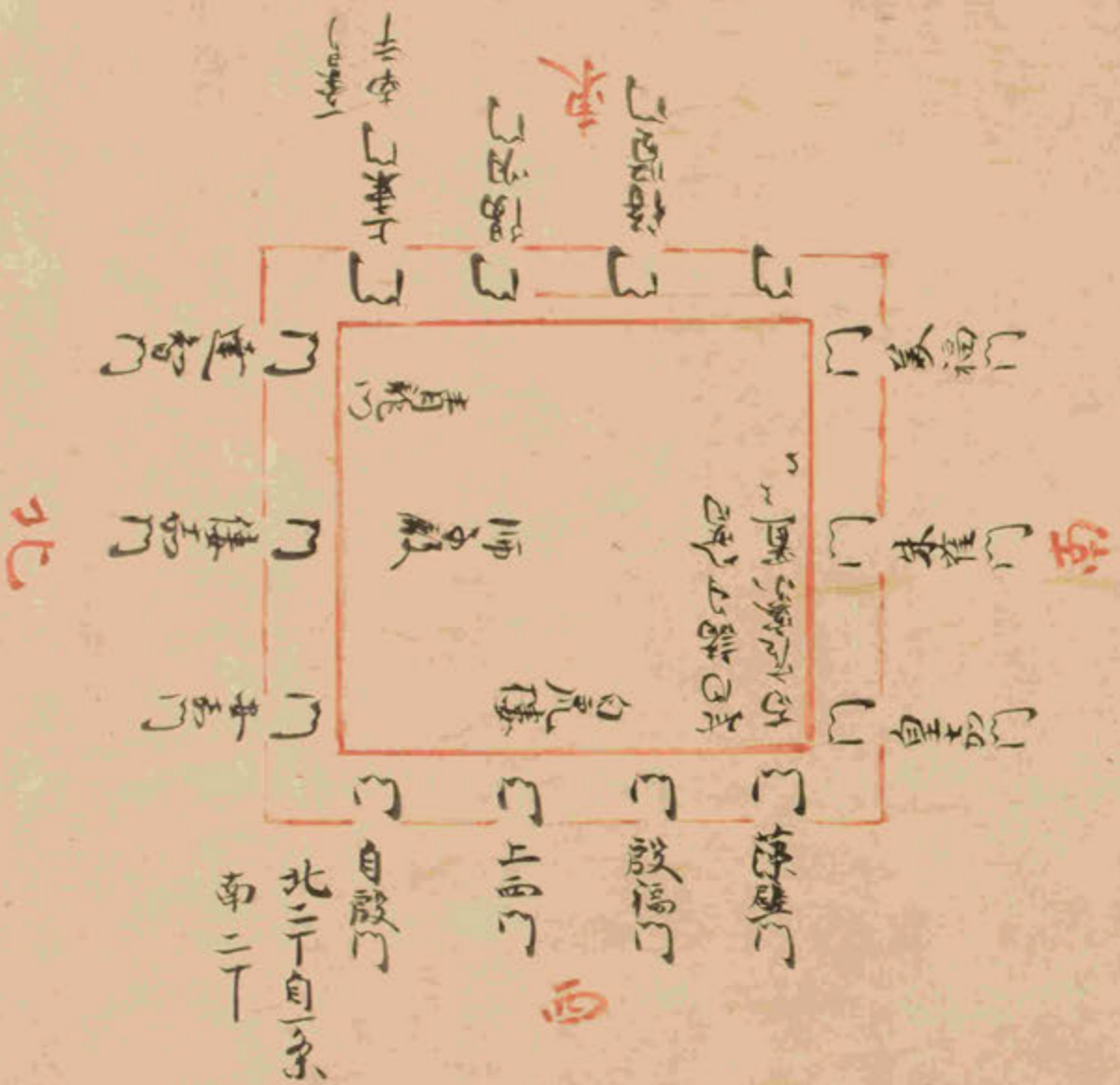
といふべしとはいふべし

といふべしとはいふべし

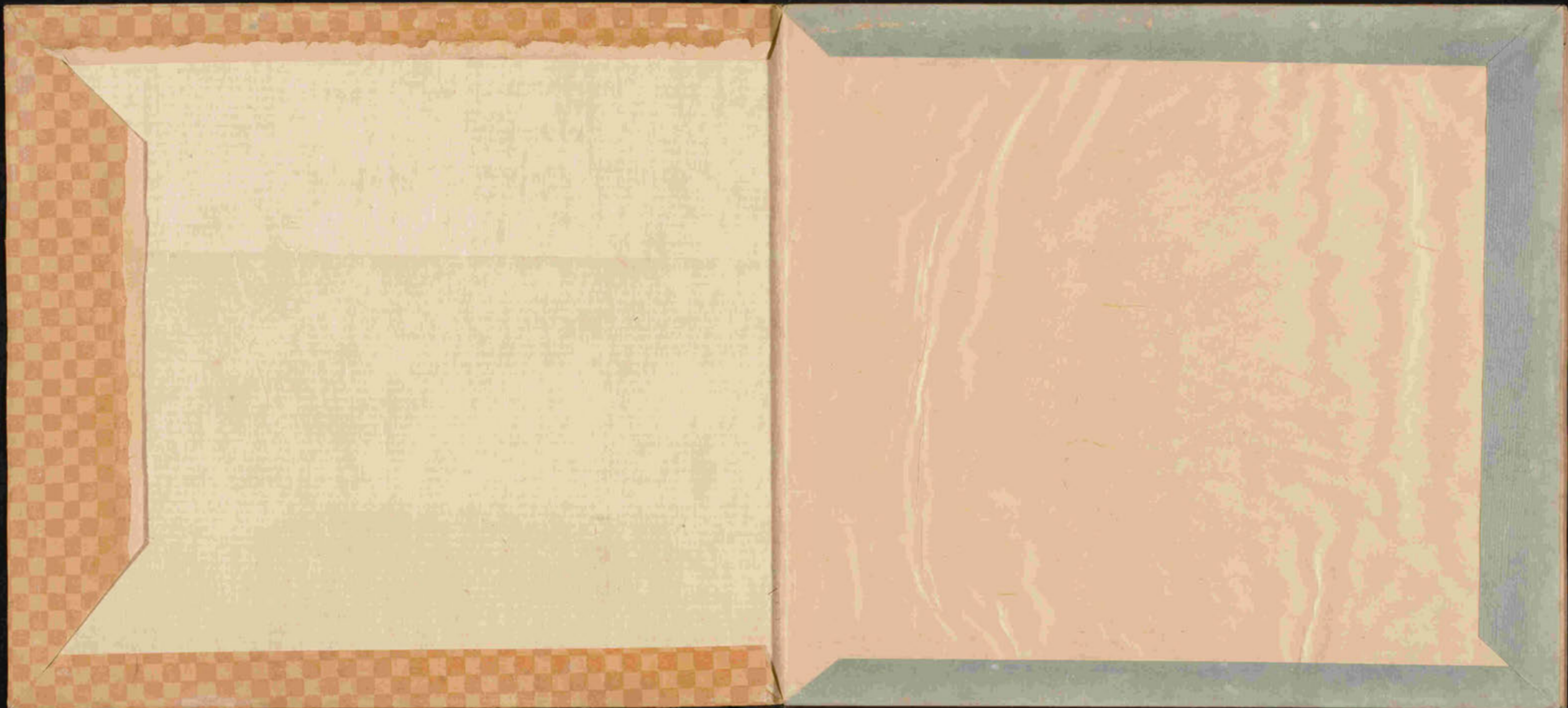
といふべしとはいふべし

一或書之
 一或書之
 一或書之
 一或書之
 一或書之
 一或書之
 一或書之
 一或書之
 一或書之
 一或書之

内裏十二門之各







110X
341
10